

にのみやそんとく 二宮尊徳



二宮尊徳の生家（神奈川県小田原市）



油菜栽培地跡（神奈川県小田原市）



桜町陣屋跡（栃木県真岡市）

二宮尊徳は、天明7年（1787）7月23日、相模国栢山村（現小田原市栢山）の二宮家の長男として生まれました。両親を早くに亡くし、親戚に預けられるなど苦勞の連続でした。

しかし、尊徳が24歳にして二宮家の再興を果たすと、その評判が高まり、37歳のときには、小田原藩主大久保忠真より下野国桜町領（現栃木県真岡市）の復興を依頼されました。

尊徳は、その功績が認められ、幕府直属の役人となり、全国610カ所の藩や郡村の復興を成し遂げました。

二宮尊徳の教え「報徳思想」とは？

二宮尊徳は次の教えを広め、多くの藩や郡村を復興しました。

積小為大（せきしょうだい）

小さな努力や工夫の積み重ねが大きな収穫や発展につながることを

至誠（しせい）

まごころを尽くすことを

勤勞（きんろう）

物事をよく観察・認識し、社会に役立つ成果を考えながら働くことを

分度（ぶんど）

自分の生活や立場、状況に合った生活をするを

推讓（すいじょう）

勤勞・分度により、生じた余剰・余力の一部を子孫や社会のために譲ることを

